

研修名 保育内容研修5（発達）

平成28年8月2日（火）10:00～12:30

講演 「発達がわかれば子どもが見える

～幼児期の発達の魅力と保育・子育て～

講師 京都大学 国際高等教育院 田中 真介 氏



1 講演要旨

①幼児期中期

- ・ 2次元形成（～しながら～する）ができるようになる。
例）はさみを持ちながら紙を切る、食器を持ちながら食べる・・・など
2歳で芽生えて3歳で確立するため、この力がつくのは2～3歳の間。
※2次元・・・2種類の活動を柔軟に切り替える（操作する）こと。
- ・ 積み木を積む・並べる（タテ+ヨコ）は1歳代で出来る。他人がつくった積み木の上に
乗せたり、横に並べることができるのは2歳ごろ、自我の拡大期といわれる（自他未分
化）。他人が作った積み木を真似ることができるのは3歳ごろ、自我の充実期といわれ、
自他の尊重ができるようになる。
- ・ 3歳の前半は期待と出会いがある。
期待しているが実際に出会うと泣いてしまう。出合いを苦手とする。
- ・ 遊びの中で、左右の手の交互開閉ができないうちは切り替えが難しい。4歳後半ころに
は交互開閉ができるようになり、日常生活も変わってくる。
- ・ 手触りを色でこたえるのは3歳独特の行為。
- ・ 友だちがいっぱいになることで、いろいろな好き・嫌いがわかるようになる。
- ・ 感受性が高まることで社会的な感情（楽しい、さみしいなど）がわかるようになる。
- ・ 2次元可逆操作（～だけれども～する）ができるようになる。
例）自分も怖いけど友達を助ける、お母さんが買い物に行つて怖いけど我慢する・・・
など
2次元可逆操作を獲得することで、自制心や自励心が形成される。

②幼児期後期

- ・ 積み木を積む・並べる（タテ・ヨコ・ナナメ）。ななめがわかるようになり、1段ずらし
て積み木を積んだり並べたりできるようになるのは5歳から。
- ・ 友だちの友だちと友だちになれる→3者関係が豊かになる。
- ・ 自転車に乗れるようになり、保育園や家以外の第3の世界を広げている（友だちの家、
近くの川など）。また、身体のコントロールができるようになり、自転車に乗る・バラ
ンスをとる・自転車をこぐ の動作が一度にできる。
- ・ 身体を使うことで空間認識ができるようになり、経験したことが絵に出てくる。空間認
識ができるようになるのは5歳ごろ。

③系列円描画

- いちばん小さいマルから、だんだん大きくして行って、いちばん大きいマルまで、マルをたくさんかいてください。 という問いをしてから次の質問をする。

<質問>

- ・いちばん小さなマルはどれですか？
- ・いちばん大きなマルはどれですか？
- ・真ん中は？（※「真ん中の丸は？」とは問わない）
- ・どうしてそれを真ん中だと思ったのですか？

（3歳児）

- ・マルの大小は見分けられる。
- ・「だんだん」や「真ん中」がという言葉がわからない。そのため、真ん中は？という問いに対し、『好きだから！』『かわいいから！』と知っている言葉で表現したり、『〇〇組やから！』など成長のなかで実感した事を述べる。
- ・描画の途中から自分の世界に入り、別のモノを描く。

（4歳児）

- ・自分の見たものをイメージして描くことができる。
- ・頑張っただけで、最後（のマル）が大きく描けない。
- ・迷って描けず白紙になる。

（5歳児）

- ・空間認知により、真ん中がわかるようになり、（前半では）「真ん中に見えたから」（後半では）「真ん中やと思ったから」と答えが明確になる。

④5～6歳の嘘

二つの事柄がある。

（1）接続詞を使って話したい。＜A+B+C＞

文脈をつなげて話したいがネタがない。

→友だちが言っていたことやテレビで見たことを発する。

その子が波打つような新鮮な経験が必要。その経験が不足していると嘘をつく。

（2）「お母さん助けて」のメッセージ

ネガティブな行動に変わる（物を盗む、取るなど・・・）

自分を見てほしいという気持ちの表れのため、叱る必要はない。

2 感想

幼児期の発達について分かりやすく説明され、もっと発達について勉強したいと感じた。幼児期では3年の間で発達が著しく変わることが再確認でき、身近に起きた出来事ばかりだったため、今回学んだことを生かし、今後子どもたちと関わる中で理解しながら、関わっていきたい。

（記録 南山城保育園 鍋島有紀恵）